

Ecola

イ・コ・ラ

No. 20
発行 2014年5月18日

こんにちは！

木々の緑が瑞々しい季節になりましたね。

世界ではいろいろな出来事がありました。皆さんはお変わりありませんか？

半年に一度、お届けしているイコラも、今回でなんと20号を迎える事となりました！

新しい事を始めるのも難しいですが、継続する事も大変です。これも多くの方々のご協力あってのこと。

皆さんへの感謝の気持ちと共に、イコラ20号『コツコツ』とスタートです（^▽^）

療育キャンプ

平成25年11月23日(土)～24日(日)

田辺市、白浜町にて

2年ぶりに療育キャンプが開催されました。

今回も、和附特の岡先生やポラリスの辻先生とボランティアの高校生たちが参加してくださり、楽しい二日間を過ごしました。



初日は、プレジール（田辺市）にて、まずオリエンテーションがありました。子どもが、ボランティアの高校生と温水プールなどで一緒に遊んでもらっている間、保護者は、辻先生による研修「事例から学ぶ自閉症理解」に参加しました。



参加された野村さんの感想です

生まれて初めてのお友達とお泊まりで、どうなるかと思いましたが、ものすごく喜んでくれました。

私が辻先生のお話を聞いて勉強している間、心配していましたが、ボランティアの先生方や高校生のお姉ちゃんたちに遊んでもらい、ご機嫌でした。

辻先生のお話では、やはり長いスパンで子どもの事を考えないといけないと思いました。今、現在では考えられない問題点などを教えてもらい、先の事なども色々と参考になりました。まだ子どもが小さいのもあって、周りはやはり同じぐらいの年齢の子しかいないので、勉強会などが本当に役に立ちます。

夕食を知らない大勢の人と食べるのも心配でしたが、何の問題もなく無事1日が過ぎてひと安心でした。夜の懇談会も楽しかったです。先輩お母さんやお父さんのお話を聞いてるうちにあっという間に時間が過ぎてしまいました。久しぶりなので私のストレス発散になりました。

次の日も皆さんと楽しく馬に乗せてもらったり、焼き芋やソーセージなどを食べて大喜びでした。

初めての体験や沢山の人のかかわりなど出来て、私も子どもも楽しかったです。



参加された西居さんの感想です

4歳の息子と療育キャンプへ参加させていただきました。

キャンプでは、親の勉強会があり、そこでは、年齢別の事例をお話しいただき、私が実際育児で悩んでいた事、困っていた事に重なることも多かったです。年齢が上の子のお話では、将来このようなことで悩む日が来るのかなと思いつつ、聞かせていただきました。その時の対処方法も一緒に教えていただき、困った事が起こった時には、キャンプでのお話を思い出そう、また、そのような時に相談できる場所があるというのが心強いと思いました。

子どもの方は、勉強会中は、ボランティアの学生さん達に、外に散歩へ連れて行っていただきました。同じ園のお友達も一緒だったので、心強かったと思います。

ホテルのロビーでは、小さなジャングルジムしかない所でも、2人で長い間楽しそうに遊んでいたりと、一緒にお風呂に入って、園で教えてもらった歌を歌っていた様子を、今でもはっきり覚えています。

私がおばあちゃんになっても、このキャンプでの2人の笑顔は忘れないでしょう。子ども達の笑顔をたくさん見ることができ、よかったです。



その後、宿泊先のベイリリィしらゆり荘（白浜町）へ移動し、夕食後、温泉で入浴しました。夜には、岡先生と辻先生による個別療育相談が行われました。また、子どもが寝た後は、お楽しみの保護者交流会もありました。二日目は、田辺市立三栖幼稚園へ移動し、乗馬体験をしました。

神戸しあわせの村バスツアー

平成 25 年 11 月 4 日（月・祝）

参加者 35 名

雨天や台風のため3年連続して行けなかった「神戸しあわせの村」へやっと行ってきました！！

今回もお天気がややこしくて、和歌山駅を出発する直前まで、行き先を迷っていました。（運転手さんからは、雨天時の行き先のハーバーランドを勧められたぐらいでした。）



でも、皆さんの「今年こそしあわせの村へ！」の思いは熱く、晴れてくるという天気予報を信じて行ってきました。

10 時頃からお昼すぎまでは本当に良いお天気で、子どもたちはアスレチックや遊具で元気に遊びました。ハイキングコースを散策したり、ポニーの乗馬をした人もいました。でも山の天気は変わりやすく、午後から雨が本格的に降ってきました。



しばらく本館の中で休憩となりましたが、ゆっくり座れるロビーもあったので、子どもたちがゲームなどで遊んでいる中、お母さん同士色々おしゃべりもできました。

その後、雨がやむと、子どもたちは急いで外に出て、広場でサッカーやバドミントンなどをして、最後までめいっぱい楽しみました。



念願のしあわせの村に行けて、みなさん幸せになれたでしょうか♪



ボウリング大会

平成 26 年 2 月 16 日 (日)

和歌山グランドボウル 参加者 28 名

和歌山で珍しく雪が積もり、支援学校が休校になった翌々日に行われました。

グランドボウルでの開催はもう三度目になるからか、シューズやボールを選んで自分のレーンの席に着く、という始める準備もスムーズにできていました。

そして、投球練習ではみんなやる気満々で「練習終わり!!」の声にもなかなか終われない人もいて、店員さんから渋い顔をされる一幕もありました。

ボウリングは、順番を待つ、ファールラインを踏まない、自分のボールを投げるなど、簡単な決め事(ルール)があるので、そういう事を守る練習にもいいですね。

今回は寒かったからか、参加人数も少なめでしたが、参加したメンバーは一息懸命プレイして、暖かくなっていたようです。中でも、お父さんが一番熱くなっていたかも……。次はお母さんもぜひプレイして、運動不足やストレスを解消しませんか？



西浦健斗くんのお母さんより、感想をいただいています。

子どもは中学2年の男子です。

ボウリング大会は、毎年参加させてもらっています。今年は外が気になりだしたので、1ゲームだけの参加にさせてもらいました。

ピンが倒れると喜んだり、ファールにならないように少し気をつけたりと、去年とはちょっとずつですが変化も見られました。

子どもが大きくなるにつれ、家族で出掛ける機会が減ってきた我が家にとって、協会のイベントはありがたいです。



ちいさな学習会『親と関係機関(者)との懇談会』

平成 26 年 2 月 21 日 (金)

中央コミュニティセンター 活動室 2

第 3 回 テーマ『発達障害の子が企業で就労するために…』 (参加者 8 名)

講師 宮惣ケミカル(株) 代表取締役社長 宮本博行さん

白浜町障害児・者相談支援室『ぼらんち』相談支援専門員 木田誠也さん

今年度、県本部の研修事業として開催した学習会の最終回です。宮惣ケミカル(株)は、元々は田辺のボタン製造会社をされており、その製造過程で出る廃棄物を再利用できないか?という事で、技術を開発され、現在はペットボトルをリサイクルして浄化槽やゴミ袋を製造するようになったそうです。

ペットボトルのラベルやキャップを外し、水洗いをする作業を、ふたば作業所が請負い、そのうち工場の一部で、ふたば作業所の指導員と利用者が10名ぐらいで作業をするようになったそうです。

始めの頃は『大丈夫かな?』と思うぐらいゆっくりした作業だったらしいのですが、日が経つにつれ上手になってきて、木田さんから「できる子居るやろ?使ってみない?」とのささやきがあり、本人に「うちで働いてみるか?」と聞くと「働く!!」と返事をしたので、雇うことになったそうです。彼は時間をかけて自転車で通い、仕事も一生懸命だったそうですが、自分で定年の年齢を決めていて、40才の若さで定年退職をしたそうです。

また、ゴミ袋の製袋工程を白浜町の作業所にまかせていたときに、底が抜けているなどのクレームがあったことを例に挙げ「障害者の作業所が作っているから・・・」ではなく、民間企業と同じ意識で『品質・納期』を守らないといけないことをはっきりおっしゃっていました。

企業としては当たり前のことですが、そういう認識は持ちにくいかもしれませんね。

最後に、私たち保護者に向けて「自分の子どもにばかり目を向けるのではなく、先生や指導員を育ててほしい。」と話され、指導員の資質によって利用者が仕事に取り組もうとする意識がずいぶん変わるということについて説明されていました。



人権フェスタ

平成 25 年 11 月 16 日 (土) ~ 17 日 (日)

和歌山ビッグホエール

今年もブース展示で参加しました。

支援グッズの展示、書籍の販売、田辺絵画教室で作成した子供たちの作品の展示、会の紹介チラシの配布などを行いました。

また、17日にはポラリス辻センター長による発達障害相談会を行い、会員を含む数組の相談がありました。



ブース当番をしていると、会員の方が寄ってくれたり、旧友との思いがけない出会いがあったり…と楽しい気持ちになりますね。次回は一緒にブース当番をやってみませんか？ もちろん、お子さん連れでも大丈夫です！



療育セミナー

平成 26 年 2 月 11 日（火・祝）
田辺市民総合センター 4階交流ホール

講演 「自閉症児の思春期におとずれる変化とその対応」

トモ二療育センター所長 河島淳子先生

学齢期までの療育の大切さを、長期にわたる実践記録のビデオ上映やグッズの紹介等で、わかりやすく解説してくださいました。



参加された藤原昌子さんの感想です

見せていただいたビデオでは、泣きわめく子が数年たつと何と落ち着いていたことか！

指導者である高橋先生は常に冷静で、暴れる子におろおろしません。ガラスを割った子に、マジックインキでガラスに番号をうち「1から順にはずしなさい。」と伝え、そのガラスを持ち帰らせるよう指導していました。

なぜ、泣きわめく子に100並べをさせるのか。自閉症児は遊び方が分からないのです。我が子もそうでした。玩具がたくさんあってもミニカーしか並べません。それも必ず同じ形！公園でも植え込みのまわりをぐるぐる歩くだけ。遊具は作業療法と通園施設で「すべり台は滑るもの！」から教えていただきました。私が先生に初めてお会いしたのは息子が5歳の時でした。講演会の後、個人的に相談にのっていただきました。息子が幼稚園をやめたばかりで、お先真っ暗な私に、「自信を持ちなさい。母親が迷っていたらダメ！」と……。

それから、毎日100並べをさせ、小学校入学時には勿論学習机を買い、毎日机上学習をさせました。初めは、何も出来ないので水塗り絵から。幸い小中学校の担任は、私と同じ考えだったので、子どもは伸びました。

この講演は、保護者だけでなく、子どもたちの指導に携わる多くの方々に聞いていただきたいからです。

岡先生のワンポイントアドバイス⑱

「自閉症スペクトラム児者と障害者総合支援法」

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 岡 潔

「障害者自立支援法」が一部改正され、平成25年4月から障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律として「**障害者総合支援法**」と名称が変更されたことはみなさんもお存じだと思います。どこがどう変わって、自閉症スペクトラム児者には何の恩恵があるのかということが知りたいですね。今回は、自閉症スペクトラム児者が受けられる福祉サービスについて解説してみたいと思います。知的障害のある自閉症スペクトラム児者も知的障害のない自閉症スペクトラム児者も発達障害児者は障害福祉サービスの利用対象の範囲であることはまずおさえておいてください。手帳とは関係なく自閉症スペクトラムなど発達障害の診断書などがあれば福祉サービスは受けられます。サービスを利用するかしないかの選択は自由ですが、使えるものは使わないともったいたくないですね。特に知的障害のない自閉症スペクトラム児者などは、これまで社会の中で十分認識されておらず、制度の谷間におかれ、必要な支援が届きにくい状態となっていたことは言うまでもありません。

サービスの利用を希望される方は、お住まいの市町村に申請して**支給決定**を受けていただく必要があります。市町村職員の心身の状況や置かれている環境などの聞き取り調査を経て利用できます。18歳以上になると**障害支援区分**の認定を受けたいうで、支給決定が行われます。サービスの利用を希望される場合、その申請については、障害のある方の場合は障害者本人が、障害のある児童の場合はその保護者の方が行うことになっています。

利用できる障害福祉サービスは、訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービス、地域生活支援事業、障害児通所支援、相談支援に分け

られます。これらのどのサービスをどこの事業所で受けるのかについて、**サービス等利用計画**を立てます。自分でも計画は立てられますが、市町村が指定している相談支援事業所にいる相談支援専門員に作成してもらい、市役所の障害福祉課(障害支援課)へ提出します。区分の判定結果や家族、本人の意向が勘案されて支給量が決定し、**受給者証**が手元に届きます。

自閉症スペクトラムの方が利用できる訪問系サービスには、行動援護や短期入所(ショートステイ)がありますし、福祉的就労をしている方には、日中活動系サービスの中の生活介護、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援などの利用があげられます。地域で生きていく時代背景を考えると、居住系サービスも注目されます。グループホームやケアホームの利用ですね。でも、どのホームもすぐにいっぱいになるのでニーズに追いついていないのが現状です。在学中なら地域生活支援事業の移動支援なども外出支援としてよく使われますし、日中一時支援もあります。子どもが学齢期にあるなら最もニーズがあるのは、障害児通所支援の中の放課後等デイサービスではないでしょうか。特徴ある取り組みが行われている事業所も多いので、子どもにあった所はどこなのか情報を集めておきたいですね。障害が重い人ほどサービスとして使える支援の量は増えますし、サービスを複数組み合わせることも可能です。福祉サービスを有効的に活用することで、将来的に自閉症スペクトラム者にも一人暮らしの可能性が出てきます。

障害のある方が各種の相談やサービスを受けやすくするために、また、年金や手当、医療などに関する福祉制度を利用するために、やはり障害の種別に応じた手帳の交付をしてもらうことも大切

です。自閉症スペクトラムの方が得られる可能性のある手帳には、**療育手帳**や**精神障害者保健福祉手帳**があります。手帳に関しても使うか使わないかは本人や家族の意向によりますが、私の学校では地域生活をしていくためのツールとして活用する練習もしています。手帳は一時的なものではなく、一生更新を続けることが大切です。医師の診

断とともにサービスを受けるための大きな力となります。

福祉サービスの利用者が自立した個人として尊重されること、利用者の自立を支援するのが福祉サービスの役割であることを、私たちはいつまでも忘れないでほしいですね。

施設見学&親睦ランチ

平成 26 年 1 月 10 日 (金)

参加者 14 名 (ランチ 13 名)



新しい年がスタートして早々の 1 月 10 日、就労移行支援事業施設『パーソナリティカレッジ』の見学と、その実践場所であるイタリア料理店『トラットリア・エジソン』での親睦ランチが取り行なわれました。

『パーソナリティカレッジ』では企業が求める人材育成を目標としているようで、本人の得意な部分から伸ばし自信をつける事や、いろいろな

ストレスをコントロールする方法を学んだり、仕事をする上で大切な事を身につけられるように、皆さん頑張っているそうです。子どもたちの将来について考えるのに、為になるお話を聞かせていただき大変勉強になりました。真面目に見学させていただいた後は、打って変わって和やかな雰囲気での親睦ランチ。ピッツァやパスタのランチには前菜サラダバーとドリンクバーがついてお得感が一杯！充実した見学会でした。3 月からは、働く事を考えるキャリア教育プログラムを行なう、児童通所支援事業放

課後等デイサービス『エジソンジュニア』もスタートしています。これからも注目したいですね。

就労移行支援事業施設とレストラン エジソンへ、見学とランチへ行かせて頂きました。今まで和歌山市内にそういう施設がなかったので新しく出来て良かったと思いました。スタッフの方も熱心に説明して頂き、障害の軽い子どもさんには、是非、見学・利用をしてもらいたいと思いました。

レストランの方も、料理はお手頃価格で美味しかったですし、食器もインテリアもおしゃれでステキでした。お子様ランチや小さい子どもさんが遊べるスペースもあり、若いお母さんの憩いの場所にもなるのではないのでしょうか。是非、皆さんも一回はお食事に行ってください。おすすめです。

《高 2 母より》



事務局から

今年度は、班分けを変更させていただいていますので、(特に班長さん、連絡を回してもらう時)ご注意ください。班の編成表は総会資料の最後のページに載せていますので、ご確認ください。

(事務局) 江川かがり

編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・奥野美和・植野比呂美 《発行》イコラ編集局(連絡先)尾崎富久子
e-mail:fukuko2939@gmail.com

※ イコラは Web 版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。
和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ!!